



令和6年度羽田中学校だより

天 空 の 橋

令和6年7月4日

目指す生徒像・・・

Heart
Never Give Up
Do Our Best

大田区立羽田中学校

「落ち着いた授業となるための取組」の一部変更について

落ち着いた授業となるための取組を始めてから2週間が経ちました。その間、定期テストも挟みましたが、少しずつ効果がでてきているように思います。定期的に、学校を訪問してくれている心理士の方からも「ちょっと落ち着きましたね」との評価をいただきました。

そこで、これまでの取組を一部変更します。「先生が生徒の皆さんに質問をしたときのルール」です。これまでのルールでは、授業中の発言はすべて原則として「手をあげて行う」こととなっていました。しかし、それはデメリットもあります。すべて手をあげて答えると、授業がスムーズに進まず、生徒が乗りやすい授業をつくりにくいのです。先生から質問をされたとき「関係のない発言などで、授業が乱れない」と、その授業の先生が判断した場合には、「手をあげずに発言するのをあり」とします。その判断はあくまで「先生」です。先生が聞いていることを発言するのは、これまで通り「手をあげて」「先生に指名されてから」です。勝手に発言してはいけません。これからも、より落ち着いた、でもみんなが楽しく受けられるような授業を目指して、取り組んでいきましょう。

正義の風を学校に！Ⅱ

～やってもらう世界から、みんなで担う世界へ～

1 安全な国日本

世界の中で、安全な国がどこかを知っていますか。国連では、加盟国の10万人あたりの殺人事件発生率を公表しています。今年はじめには、2021年度の殺人事件の発生率が発表されました。国連加盟国のうち、データのある154ヶ国の順位を、上位10ヶ国、下位10ヶ国紹介します。

2021年 殺人発生率

順位	国名	単位：件/10万人
1	ジャマイカ	52.13
2	セントルシア	38.96
3	ホンジュラス	38.25
4	南アフリカ	33.96
5	ベリーズ	31.25
6	セントビンセント・グレナディーン	30.67
7	セントクリストファー・ネイビス	29.41
8	トリニダード・トバゴ	29.36
9	バハマ	29.17
10	仏領セント・マーチン島	28.73

世界計

5.79 件/10万

順位	国名	単位：件/10万人
149	クウェート	0.25
150	オマーン	0.24
151	日本	0.23
152	シンガポール	0.1
153	バーレーン	0.07
154	米領サモア	0
154	マン島	0
154	モントセラト	0
154	ツバル	0
154	バチカン	0

154ヶ国のうち、日本は151番目、下から数えると8番目になります。非常に治安のよい安全な国だということがわかります。では、治安がよくない国はどのくらい殺人が起きているのでしょうか。日本の10万人あたりの殺人事件発生率は「0.23」です。それに対して、1番殺人事件が発生しているジャマイカでは「52.13」。日本の約227倍にもなります。これは非常に大きな数字です。例えば、もしジャマイカと同じくらい殺人事件が起きるとすると、東京都や大田区で1年間にどれくらい殺人事件が起きるかを計算してみます。

	人口	日本の頻度での計算	ジャマイカの頻度での計算
大田区	74万9960人	1.7件	391.0件
東京都	1417万0275人	32.6件	7387.0件

(人口は、令和6年5月1日現在の推定値)

なんと、ジャマイカと同じくらい殺人が起きるとすると、東京では1年間に7000件以上(1日で20件以上)の殺人事件が発生することになるのです。

もし、殺人発生率が高い治安の国に住んでいたら、相当生活に不安を感じることになるはずです。日本が安全な国でよかったと、心から思います。

2 治安がよい社会をつくるのは誰か

さて、もう少し話を進めます。もし、皆さんがジャマイカに住んでいたとしたら、事件に巻き込まれないよう怯え、不安を抱えて生活することになるでしょう。当然「もっと、治安がよい社会にしたい」「治安が良くなれないかなあ」と思うはずです。

では、殺人などの事件が少ない社会、殺人が起こらない社会は、誰がつくるのでしょうか。まず、殺人が起きたときに悪いのは誰かを考えます。当たり前ですが、一番悪いのは殺人事件を起こした犯人です。ですから、起こった殺人事件で、一番責任をとらなければいけないのは犯人のほうです。しかし、どう考えても殺人を犯した人が「社会を良くする活動」をしてくれるとは思えません。では、「殺人が少ない社会」「社会を良くする」ことは誰がすべきなのでしょう。答えは、「みんな」です。みんなが住む「社会」は、その社会に住む人が良くしなければ仕方がありません。殺人をする人が悪いのだから、自分には関係ないなどと言っていたら、社会は変わらず、不安や被害は自分に回ってきます。暮らしやすい社会は、その社会の人がつくるしかないわけです。ですから、「社会を良くする活動」はみんながしなければいけないのです。殺人事件だけではなく、万引きや暴行、恐喝、詐欺など日本でも起こっている犯罪でも、それができるだけ少ない社会をつくりあげるのは「みんな」がするしかありません。多くの人が「良くない」という意見をもち、「させない」という活動をするからこそ、罪を犯しそうな人も「いけない」という気持ちにさせられ、犯罪を減らすことができるのです。また、事件が起こっても犯人がわからないことはあります。そういった場合にも、それが起こらないようにしていく「責任」は、社会のみんなにあります。犯人がわからないからといって、被害を放っておいたらますます社会は良くなるからです。実際の社会では、直接その活動に携わる人は、政治家であったり、警察であったり、地域の町会の方だったりします。しかし、その活動のためのお金は、みんなからの税金で集めています。そして、その税金の使い方は、国民の代表である議員が決めます。治安を大切に活動をする議員を当選させるのは国民です。国民が治安を守ることに関心がなければ、多くの税金で治安を守ることにはなりません。また、地域の町会の方の活動なども、地域の人たちが応援してくれていなければ成り立ちません。少なくとも、多くの人が「よりよい社会をつくろう」という意識をもっていることが、より良い社会、「殺人などが起きない社会」をつくるためには、絶対に必要なのです。

3 学校の中で、より良い生徒集団(クラス、学年、学校)をつくるのは誰か

では、学校の中でトラブルが起こったときはどうでしょうか。

学校の中で、トイレが使えなくなるなど、みんなが困るような「いたずら」が起こったとします。誰がやったかはわかりません。それが何回も起こっているとします。この場合でも、一番悪いのはそれをした生徒です。しかし、だからといって「自分には関係ない、だから何もしない」ではクラスや学年、学校はよくなりません。どんどん落ち着かなくなり、生徒みんなが困ってしまう状況になりかねません。では、誰が「集団を良くする活動」をするか。この場合も2と同じで、「みんな」です。みんながやるしかありません。誰がやったかわからない状況で、みんなが「自分には関係ない」と考えると、誰も「社会を良くする活動」をしないことになります。結果として、落ち着かない集団になり、最終的に自分に被害が回ってくる可能性が高くなります。もちろん、実際にメインとして動くのは「学級委員」であったり「生徒会役員」であったり、あるいは「先生」であったりするかもしれませんが、その活動は「みんなの思いに支えられていなければいけない」のです。「みんなで悪い事をなくす。学級委員はみんなの気持ちの代表だ」という気持ちに支えられていなければ、活動の効果はできません。これも2とまったく同じ

論理です。

みんなが「いたずらは嫌だ」「なくしていこう」という気持ちを持ち、みんなが活動する。そのリーダーシップを生徒会の役員や、学級委員、先生がとる。そういう状態にならないといけないのです。ところが現実の学校では、「私がやったわけではないから、私には関係ない」という中学生が多くなってしまっています。

問題となることが起きると、多くの場合集会を行い、先生が注意します。「やった人は名乗りでなさい」、「落ち着いて生活しよう」、「やっではダメなことはわかってるでしょ」……。しかし、ほとんどの場合、やった人が名乗りでることはありません。それどころか「自分には関係ないのに、何で。残されるのはおかしい」という不満をもつ生徒すらでてきます。先生たちが生徒への注意は当たり前ではあります。しかし「先生＝注意する人」「生徒＝管理され、注意される人」という構図になってしまうと、生徒の不満が広がり、先生の言うことを聞かなくなっていく。すると、もっと問題が広がっていきます。先生が注意をすることで、ますます集団が崩れていく、学校の荒れの始まりです。

4 やってもらう世界から、みんなで担う世界へ

でも、よく考えて見て下さい。問題が起こったとき、それをなくそうと努力しなければいけないのは先生だけなのではないでしょうか。本来、「社会を良くする活動をする人」は集団のみんなのはずです。「トイレへのいたずら」が起こったとしても、生徒のほとんどは「やった人」ではありません。でも、先生以上に「トイレへのいたずらなどが無い社会にしないようにしよう。落ち着かず、嫌な気持ちになる人がでないような社会にしよう」と活動する主体は生徒のはずです。少なくとも先生と一緒に活動するのが当然なのではないのでしょうか。**先生と、ほとんど多くの生徒は仲間のはず**なのです。ところが、日本の学校では「社会を自分たちでつくる」という民主主義の基本である大原則がきちんと教えられていません。生徒がわかっていないだけではなく、先生たちも「きちんと教えなければいけない」という思いが足りないかもしれません。問題が起こったときに、生徒に「共に、よくしていこう。共に活動しよう。一緒に考えよう」という働きかけより、生徒を「管理・注意」する働きかけの方が強くなってしまっていることが多いのです。そして、問題が起こったときに、生徒みんなを集めると「（自分がやったわけではないのに）集められるのは迷惑、集めないでほしい」と先生の側に不満を言う（これは、やった生徒に言うべき話です）。学級委員を残して、学校の中の問題を話し合うと「（自分がやったわけではないのに）残されるのはおかしい」という不満になる。結果として部活動にでれないと、「（自分の子がやったわけではないのに）部活動に出られないのはおかしい。子どもが不満を言っている」と保護者から電話がかかってくる。大きく構図がおかしいとはおもいませんか。本来、「社会を良くするために活動する」のは社会の構成員、学校であれば生徒であるはずなのです。それは、社会を成り立たせるための根幹であるはずなのです。そうでなければ、生徒が学校の主人公になっているとはいえないはず。この構図は、見方を変えれば「社会をよくするための活動」を先生たちだけにやってもらっていることになります。しかし、「社会の問題は誰かが解決してくれる。自分には関係ない」と生徒が思うようになっていけません。それでは、これからの社会を担う人物を育成することにならないのです。

義務教育の最後である中学校では、自分たちで自分たちのことを考え、自分たちで解決することをしていかなければならないはず。もちろん、中学生がすべて自分たちで解決できるほど成熟しているわけではありません。でも、先生たち、あるいは保護者・地域の大人たちと一緒に、仲間として活動することはできます。それが、民主主義社会の社会人をつくるためのトレーニング（学習）になるわけです。課題の解決を先生たちにしてもらおう。でも、それを不満に思う。先生と生徒が対立する。大きく学校が荒れる。学校の中で嫌な気持ちになる被害者が多くでる。そんな、昭和のころの状況をつくるのはやめたいのです。「私がやったわけではないから、私には関係ない」という生徒が多いほど学校は荒れるのははっきりしいてのですから……。

現在、羽田中がものすごく大変な状況ではありません。しかし、課題となることが起こったときに、「私には関係ない」となる生徒が多いのも事実です。正義の風を吹かそうとしているのは先生ばかりで、生徒の方からは風が吹いてこない。そんな風に感じています。羽田・糀谷地区は、地域での活動が活発な地域です。地域の方々が、自分たちの社会を自分たちでよくしようと、一生懸命活動してくださっています。その姿勢をぜひ中学生にも伝えていきたい。

生徒のみなさん。誰かにやってもらうのではなく、自分たちで社会をつくりましょう。課題の解決も、仲間として大人と一緒に考えていきましょう。

その方が、自分たちが主人公となって楽しいとは思いませんか？

推薦基準に関して

昨今の入試に関し、様々な形態があります。その中で、昔から推薦入試というものがあります。各学校で推薦入試の基準が設定されています。生徒を卒業後の学校へ推薦するのは中学校であり、羽田中学校が推薦する基準もあります。先月行われた進路説明会でもお伝えしていますが、改めて全体に対してもお知らせします。

●羽田中学校の推薦をする基準

- ① 学校内外の諸活動に取り組み、節度ある言動をとれること。
- ② ルールを理解し、学校生活において問題行動がないこと。
- ③ 出席の状況が良好なこと。ただし、特別な事情がある場合は除く。

以下の場合、推薦できません。

- (ア) 2年次の欠席・遅刻・早退日数が合わせて50日以上ある者。
- (イ) 3年次の欠席または遅刻または早退日数が15日以上ある者。
- ④ 授業態度・提出物など、学習態度が良好なこと。
- ⑤ その高等学校に進学することが第一希望であり、合格した場合は必ず進学する。

<補足>

- ◎ 問題行動とは窃盗・暴力・暴言・喫煙・異装・授業エスケープ・授業妨害などのこと。基本的な学校生活のルールを守ることが、大前提となります。
- ◎ 係活動や当番活動なども、きちんと取り組むことが出来ること。
- ◎ 生活習慣が身に付いており、欠席・遅刻・早退などが少ないこと。
- ◎ 人や場によって態度を変えるなど言動に裏表がないこと。
- ◎ 目的意識を持ってしっかり学習が出来ること。

中学校からの推薦を受けるためには、
他の生徒の模範となるような言動、態度を心がけなければなりません。

学習を始め学校生活全般に関し一所懸命取り組みましょう。学校のため・地域のために活動しましょう。そして何より規則正しい生活を送ることが大切です。そうすれば、自ずと上記の推薦基準は達成されることとなります。推薦入試制度を利用するかどうかは人それぞれですが、上記に挙げた生徒となれるよう心掛けてほしいです。一学期が終わり夏休みとなる節目の時期です。今一度自分の生活を振り返ってみましょう。